

日野川に砂れき河原をとりもどす活動

日野川に砂れき河原をとりもどす会 事務局 ○上木 善憲
環境文化研究所 研究員 田中 謙次

1. 活動方針・目的

昔ながらの砂れきの河原を復元し、地域住民が川に接する機会を増やし、川を見ながら、自然から受ける癒しや学びの心を感じ、または、釣りや自然観察や集いの場所として川を活用した地域づくりを目指すことを目的としています。

2. 活動内容

始めの取り組みは、日野川の現状を地域に発信する機会を設けました。

水辺での動植物分布の調査、川の周辺にある歴史的遺産や観光施設の研究、水遊びや川に学ぶ体験活動の実践、川の安全講座、日野川漁協のアユ育成施設の見学、Eボート体験・用水の見学など。これらの活動をスタッフや行政、河川管理者、漁協・用水の管理者など関係者が実体験して、ホームページや新聞報道等も活動しながら周知しました。

次に地域住民全員を対象にした活動を行いました。これが、今回の砂れき河原をとりもどす活動の第一回目です。川に関わる専門家が知識と経験を活かして、これまでふるさとの川に接することの少ない地域住民が“日野川に行ってみたい、日野川でやってみたい”と感じられるようなメニューをいっぱい詰め込みました。

平成21年7月26日は、「そうだ！川に行こう日野川自然博物館」と題して、300人以上の方々が参加した川のイベントを実施しました。子どもたちは、魚のつかみ取りから魚のさばきも焼きも経験し、自然観察では、水生生物観察やEボート体験、企業からは、ソーラーパネル展示や魚道システムの展示、行政からは魚道観察など、イベントの準備・宣伝・実践まで行政・住民・企業が一体となってイベントを盛り上げました。

そして、このきっかけを活かして、今年も活動をスタートさせています。

3. 他の活動団体の参考となる事例

砂れき河原は、川の穏やかな流れと増水による河原の変化でできた石がごろごろ堆積した川の光景ですが、それが普通であった昔には、地域の方々には、あまり気にも留めなかった存在であったと考えます。しかしながら、上下水道の発達やダムので河川内に草木が生い茂る傾向が各地で見られます。

よく“砂れき”って何ですかと聞かれますが、昔はふつうであった川の環境を復元し、地域住民が集い・活かしていくことができる可能性の多い場所であると考えています。

地域の声をたくさん集めることが、川を活かした地域づくりに欠かせません。

4. 今後の課題

企業・行政・住民が自主的に活動に参加し、必要最小限の資金とスタッフを集めること。

日野川に砂れき河原をとりもどす会・発表資料

『これまでの活動について これからの活動について』

日野川とともに暮らす地域づくり

実施日：平成22年3月12日(金)
会 場：ドーンセンター(大阪市)にて
発表者：上木善憲(事務局)
田中謙次(環境文化研究所・研究員)

日野川のある福井県・越前市について



【越前市の人口】

人口：8万5433人
(平成22年2月1日調べ)
※福井市・坂井市に次ぐ
3番目の人口

【主な産業】

半導体、自動車部品、
電子部品等の機械産業
越前打刃物、越前和紙
の伝統工芸品など

【農産物】

福井米、白山すいか など

日野川の概要について



【総延長】

71.5km

【流域面積】

1,275.5km²

【水源】

夜叉が池
(南越前町・岐阜県境)

【河口】

福井市高屋町で
九頭竜川で合流

日野川の活用方法と水辺環境について



【サイクリング】

鯖江市から南越前町まで。距離26kmのサイクリングロード。

【釣り】

6月から鮎釣り解禁。上流では、2月から溪流釣り。

【カヤック・体験活動】

動植物など生き物観察子どもの水辺安全講座など



【水辺環境の現状】

・堤防から水際までに草木が生い茂っており釣り客や水辺で遊んだりする際には茂みをかき分けなければいけない。

【今起きていること】

- 野鳥のすみか
- 自然の草木の緑が美しく見える
- ×遭難時・救急時に助けにくい
- ×洪水時に流木が橋脚をこわす
- ×川底の土砂の沈殿が進む など

日野川に砂れき河原をとりもどす会の発足



【設立】

平成21年3月10日

【活動の目的】

昔ながらの砂れきの河原を復元し、地域住民が川に接する機会を増やし、川を見ながら、自然から受ける癒しや学びの心を感じ、または、釣りや自然観察や集いの場所として川を活用した地域づくりを目指すことを目的としています。



【新聞掲載】

平成21年3月10日の発足の際に行われた会議と現地視察会の様子が、福井新聞に掲載されました。
日野川用水土地改良区、福井県、越前市、南越前町、武生観光協会、今立観光協会、日野川漁業協同組合、野鳥の会 など、20団体、30名が参加しました。

【構成メンバー・38団体・平成21年7月26日現在】

【NPO】

(財)日本野鳥の会会員・武生カヌークラブ・日野川を愛する会・日野川流域交流会・田倉川と暮らしの会・ふくい里地里山ネットワーク連絡会・坂口エコメイト・夜叉ヶ池を讃える会・夜叉ヶ池森林パトロール隊・水辺と生き物を守る農家と市民の会・RAC川に学ぶ体験活動協議会

【学校】

福井工業高等専門学校環境都市工学科・武生工業高等学校都市工学科

【組合】

福井県日野川漁業協同組合

【協会】

武生観光協会・今庄観光協会・(社)越前市体育協会

【河川管理者】

福井県土木部河川課・福井県丹南土木事務所

【行政】

福井県丹南農林総合事務所・国土交通省近畿地方整備局

【自治体】

越前市・(財)越前市施設管理事業団・南越前町

【連合会】

南越前町区長会連合会

【企業】

武生商工会議所建設業部会・(株)ミルコン・(株)ビオ・橋本電気(株)・北陸電力(株)・(株)ビスコ

【研究機関】

たかはし河川生物調査事務所・福井陸水生物研究会・環境文化研究所

【土地改良区】

日野川用水土地改良区・松ヶ鼻土地改良区

【報道】

福井新聞みらい・つなぐ・ふくいプロジェクトチーム

【事務局】

日野川流域交流会

『そうだ！川に行こう！～日野川自然博物館～』オープン！



【7月のイベントに向けたメンバーの活動】

- ・川の現状を把握する
(Eポート体験による動植物の調査)
- ・漁協やサポートスタッフがRACの川の指導者の資格を取得した。

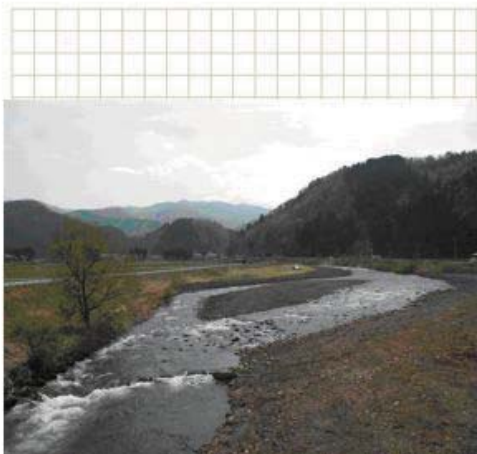


【7月26日のイベント開催】

- ・300人以上の方々が参加した川のイベントを実施した。
- ・魚のつかみ取り、魚のさばき、焼き方を経験。
- ・自然観察では、水生生物観察やEポート体験。
- ・企業は、ソーラーパネル展示や魚道システムの展示。
- ・行政からは魚道観察など

スタッフ専門家がそれぞれのイベントで専門性を活かした川のPRを集まった親子連れなどに行った。

今後の取り組みについて



【今後活動について】

昨年に引き続き、会のメンバーを招集し、来年度の開催に向けた準備を始めている。今年、8月に実施予定。それに合わせて、行政・住民・専門家と一体となって、河川内の樹林伐採などを始めている。着実に水辺の環境が改善されている。

【今後の課題など】

企業・行政・住民が自主的に活動に参加し、必要最小限の資金とスタッフを集めること。